

イ. ネット巻き

ネット巻きは、被害の出ている幹や枝の周囲をネットで覆うことにより、羽化した成虫の飛翔・拡散を防止するとともに、効果的に捕殺することを目的として行います。

ネット巻き実施後は、成虫の発生状況の監視を頻繁に行い、成虫が確認された場合には、その場で速やかに捕殺します。

【使用時期】

成虫が発生・拡散する6月頃から8月頃にかけて必要となるため、羽化が始まる前の5月下旬までに設置します。

成虫の発生終了後は、薬剤の使用や経過観察などの支障となるだけでなく、景観上も好ましくないため、9月中までには、必ず忘れずに外すようにします。

必要な道具

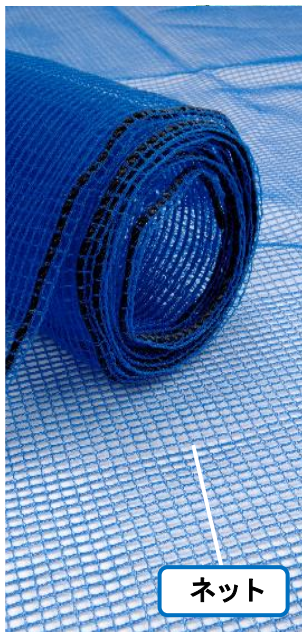
○ネット（ナイロンなどの素材、目合い4～5mm程度）

ネットの色は、黒色が見やすいという報告もあり、景観面なども考慮して総合的に検討する。

○結束バンド

○壁打ち用ステープラー

○ペグ など



【使用方法】

① ネットを巻いて固定する

フラスが確認されている幹や枝に巻き付けます。できるだけ高い位置まで設置するのが望ましいですが、作業上の限界もあるため、フラスの確認状況等も勘案します。

閉じ込められた成虫は、脱出しようとネットの中を徘徊しますが、ネットと樹の間に隙間がなく窮屈だとネットを食い破って逃げ出すため、ネット内で本種が動けるくらいの余裕を持たせながら 2周程度（頻繁に点検する場合は1周も可）巻きます。幹や枝が二股になっている箇所は、股の間にもネットを被せます。1枚のネットで覆いきれない場合は、結束バンドなどを使って隙間なくネットをつなぎます。

② 上下の隙間をふさぐ

ネットの上部を、結束バンドや壁打ち用ステープラーなどで隙間ができないように固定し、細かい隙間は布などの詰め物でふさぎます。ネットの下部（足元）も、ペグなどを使いながら、隙間ができないように固定します。

③ 巡回点検する

ネットを張った後は1日に1回～2回程度（最低でも週3日）巡回し、発見次第、速やかに捕殺して下さい。ネット内で雌雄が出会うとすぐに交尾する可能性が高く、放置していると大量の卵が産み付けられてしまうため、巡回と捕殺は非常に重要です。

